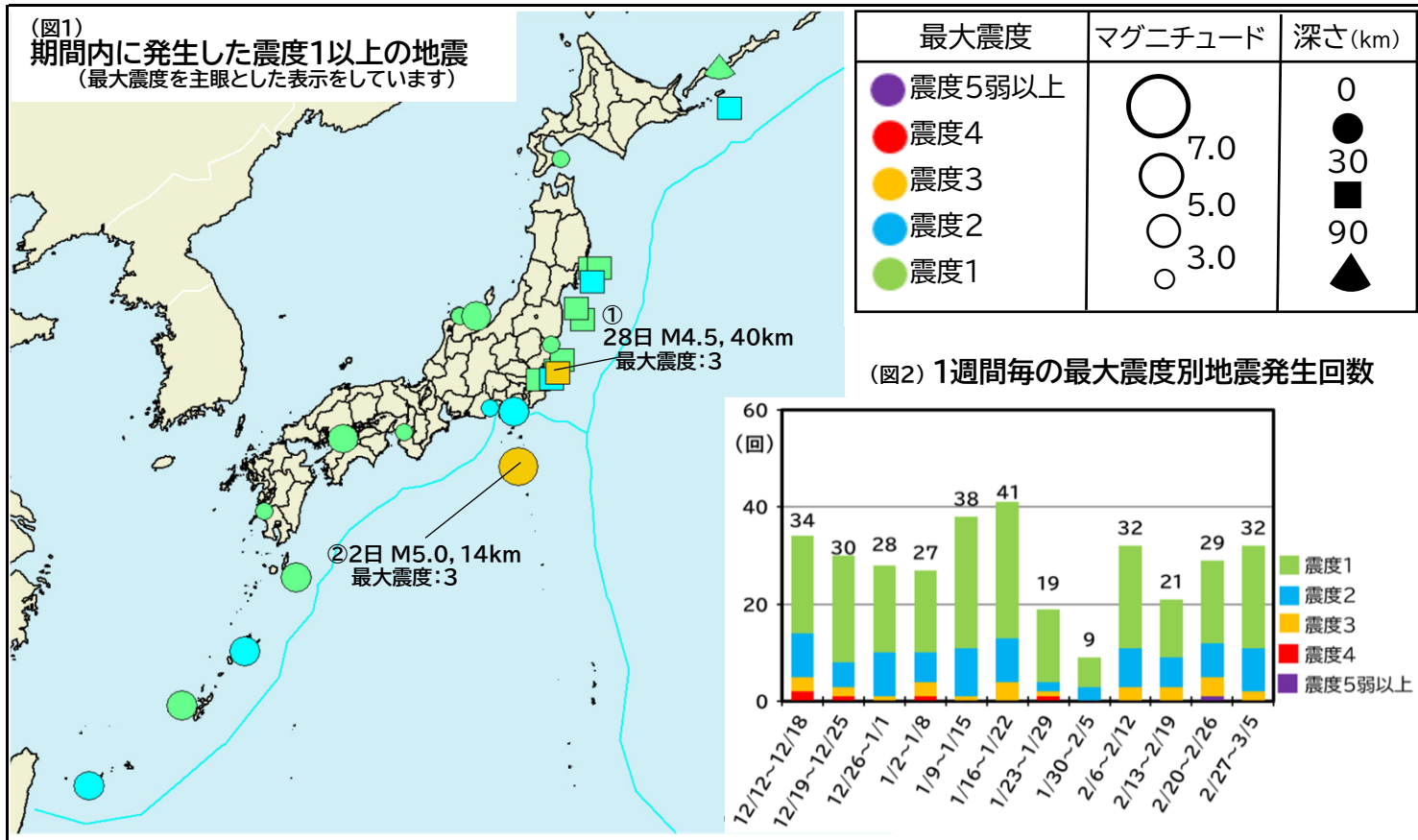


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が32回発生。最大震度は3。■
- ①2月28日12時55分に茨城県沖で発生した地震(M4.5、深さ40km)により、茨城県神栖市、千葉県旭市で震度3を観測したほか、福島県から栃木・群馬県にかけて震度2~1を観測。
- ②3月2日15時47分に八丈島近海で発生した地震(M5.0、深さ14km)により、東京都八丈町で震度3、青ヶ島村で震度1を観測。この地震はフィリピン海プレートの地殻内で発生した横ずれ断層型。この地震の震源付近では、同日17時51分に(M3. 9、最大震度1)、翌3日19時18分に(M3. 8、最大震度2)が発生した。

トピックス

- 東日本大震災から12年 ■
- ・今週、土曜日の11日は、東日本大震災が発生してから12年になります。
- ・最近の地震発生状況を見ました。
- ・もともと地震活動が活発な岩手県沖~茨城県沖にかけての地震活動は、東日本大震災の影響で更に活発となったが、時間経過と共に地震発生数は少なくなっている(図4)。
- ・しかし、東日本大震災より前の5年間と比べると、それより多い状況が続いている。
- ・このなかで、2021年と2022年に一段多くなっているが、これらは福島県沖で発生したM7. 3(最大震度6強)とM7. 4(最大震度6強)に伴う余震の影響。
- ・このように、これからも一時的に増えることはあっても、全体的には少なくなっていくものと考えられますが、東日本大震災のような巨大な規模の地震では、発生前と同じような状態になるには相当な時間がかかり、10年20年あるいはそれ以上、影響を受け続けることになるでしょう。
- ・発生場所を見ると、東北地方太平洋沖地震の本震付近(大きなすべりを生じた領域付近)での地震発生数は少ないが、余震域全体の外縁付近での発生数が多い(図3)。

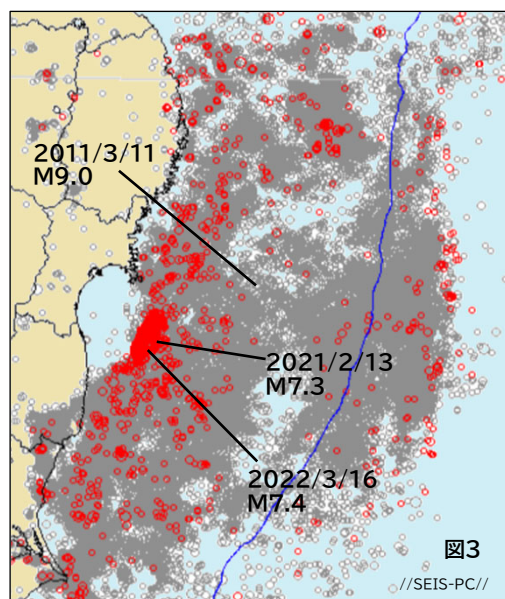
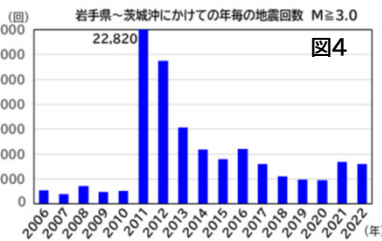


図3: 2011年3月以降に発生した地震(M $\geq$ 3. 0)  
赤丸: 2022年1月1日以降に発生した地震  
灰丸: 赤丸以前に発生した地震  
図4: 岩手県~茨城県沖にかけての年毎の地震回数(M $\geq$ 3. 0)